

バイオビジネス環境学特論 I (2単位)

担当者氏名 稲泉博己

◆学習・教育目標

地球規模の環境問題の発生やグローバリゼーションによる経済競争が激化するなかで、バイオビジネスと環境の核と見做される農業・農村が持続的に発展していくためには、それを支援する者が不可欠である。さらに具体的な支援者である、公（行政）、共（農民組織等）、私（企業等）が、基本理念・目的を共有し、相互補完的にそれぞれの役割を果たすことが重要である。本講では、①これら3者のシナジー関係を AKIS (Agricultural Knowledge and Information System) の概念枠組みを援用し、日本・アジア・アフリカを対象にして検討する。さらに、② AKIS の機能として、地域の多様なアクターが相互に学び合う CoP (Community of Practice) が形成されていることを検証する。これらを踏まえ、③社会・経済条件が大きく異なる事例を CoP 形成過程とネットワーク構造の視点から AKIS の類型化を図るとともに、経済発展段階、社会・文化的背景に応じた高い国際性を有する主体形成・価値創造型の農業・農村支援モデル構築を目指す。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

持続的發展	シナジー	AKIS	CoP
社会経済条件	ネットワーク構造	農業・農村支援モデル	

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-2	BB 環境学の目的と方法	国際バイオビジネス学とバイオビジネス環境学 主体と客体(対象)	配布資料と紹介文献 の熟読
3-4	バイオビジネス環境	バイオビジネスの環境（自然、政治経済） （社会文化）	
5-6	経営主体に対する支援①	公的アクター、行政などの取り組み	
7-8	経営主体に対する支援②	共的アクター、農民組織、NPO などの取り組み	
9-10	経営主体に対する支援③	私的アクター、営利企業などの取り組み	
11-15	AKIS-CoP 理論	農業知識情報システム、 実践コミュニティ、 正統的周辺参加 つながりの理論 前学期のまとめ	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

- (1) Etienne Wenger ‘Communities of Practice’ (Cambridge University Press, 1998)
- (2) Everett Rogers ‘Diffusion of Innovations’ (Free Press, 5th edition, 2003)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

- (1) 中安定子・荏開津典生編「農業経済研究の動向と展望」(富民協会。1996年)
- (2) 内山政照「現代農村の社会問題」(筑波書房、1990年)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

小テスト 50%、レポート 50%

◆その他受講上の注意事項

